

南蛮屏風下張文書レプリカ贈呈式 谷垣禎一日本ポルトガル友好議連会長御挨拶

日本にとってポルトガルは、最初に出会ったヨーロッパであり、両国の交流の歴史は470年余に及びます。南蛮屏風は、両国が交流を持ち始めた直後、日本からポルトガルに持ち込まれました。

その下張文書は、当時、両国の間に確かな交流があったことを、現代に生きる私たちの目の前で、生き生きと語りかけてくれています。

私は、両国の友好の証である下張文書の修復を支援してきました。2000年、エヴォラ国立古文書館及びリスボン国立図書館に収蔵されていた下張文書が修復されて以降、現在はポルトに保存されている下張文書の修復が計画されています。

下張文書は、日本人にとっても、当時の日本を知る上で、大変貴重な歴史資料です。日本人を代表し、改めて修復に携わってくださった皆様の御尽力に敬意を表します。

また、日本・ポルトガル友好議連の会長として、本日、そのレプリカをリスボン国立図書館とエヴォラ国立古文書館に贈呈できることを嬉しく思います。

多くのポルトガルの皆様が、このレプリカを御覧になって、未知への航海に挑んだ先人達が東洋で出会った文化に思いを馳せるとともに、かつて、彼らが偉大な好奇心をもって求めてくれた私たち日本との友好親善を、現代において更に発展させるきっかけにしていただければ、幸いです。

(了)